

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年6月17日(金)

### 《神様は弱さを選びました》

今日の福音(マタイ 6・19-23)は一文字も他の解釈がいないぐらいはっきりとした内容ですので、皆様が味わって読んでいただければありがたいと思います。

今日は昨日の話の続きとして、使徒パウロと使徒ペトロについて申し上げようと思います。

神様の摂理というのでしょうか、導きというのでしょうか、本当に不思議と思われることが聖書の中には結構みることができるとは思います。私達が普段関わっている人々の人生にも、それはよく現れているのではないかと思います。

さあ、今日こちらにいらっしゃっている皆様にも、それぞれに個人的な歴史があるわけです。そして、その個人個人の歴史をちょっとのぞいてみますと、不思議なことばかりではないでしょうか。これは誰かと比較する必要がありません。皆様が今まで歩いてきた全ての過去をよく振り返ってみてください。皆様が信仰的な目でみるならば、その過ぎた、通って来た全ての道には、「やはり神様がいつも見守って下さっていた」という結論に至るのではないかと思います。私が個人的に自分のことを見ても、もう逃げ場がありません。本当に私が何をしても、反発しても、結局神様の御手の中でのことに過ぎなく「まあ、いいよ」と言われて来たように感じています。

とにかく昨日は、ペトロの性格とパウロの性格について申し上げたのですが、繰り返して言いますと、ペトロ使徒は純粋な心、ある意味では劣等感が強かった人です。ですから彼の心としては正しいことなら何でもやりたい気持ちがいっぱいだったのです。しかし、いつも自分のことでがっかりしてしまう、そういう傾向が大きかった人物です。イエス様が自分達に現れた時、「私達から去って下さい」とか、良心が澄んでいる人でしたので畏れをおそよく感じたようです。あまりにも清い心を持っていたので、自分のあり方もよく見える人でした。ですから自分が自分のことを、あまり好きになるタイプではなかったのです。正義感もありました。これが正しいか正しくないか、自分の弱さを分かりながらもその時しようがなく口が動いてしまいます。「あなたはメシアです。あなたが行くところどこへでも一緒に行きます。いいえ、私があなを裏切ることなどありません。」と言っています。そういう方を世話する神様のなさり方をちょっと考えてみましょう。

ではパウロはどのような方でしたか。今日も第一朗読(2コリント 11・18、21b-30)で偉そうな話ばかりしていますね。いつも自分が一番偉いように振る舞い、そして、自分の頭で何事に対しても必ず論理的に人々に話して、説得させる力を持っていた人です。

さあ、この二人の性格を誰よりもご存じだった神様の扱い方はどうでしょうか。使徒ペトロについては、もっと自分が神様の御前で何も無い者であることを知らせました。何回もイエス様をがっかりさせたにもかかわらず、イエス様はいつも赦して下さいました。“自分はどうしても神様の愛がなかつ

たら許されない。”“自分は神様の御前では何の役にも立たない弱い人間である”と、そういう意識をイエス様が強められたと思います。

では使徒パウロはどうですか。ある意味で生意気でしょう。自分の頭をあまりにも信じ過ぎる傾向があります。そういうことでは絶対上手くやっっていけないことをイエス様はよくご存知でした。ですから彼には病気を与えました。イエス様は一番自信のあるところからいつも攻められました。自分の事を振り替えてみても、自分にとって一番強いと思ったところを神様は必ず折って下さいました。そしてイエス様は傲慢にならないように、いつも彼の病気を持って戒めました。ですから今日最後にこのような表現があります。『誇る必要があるなら、わたしの弱さにかかわる事柄を誇りましょう。』これは使徒パウロがある意味で結論的に言った告白です。「わたしがもし誇る事があるとすれば、それは自分の中にある弱さです。」自分の中にある弱さによってイエス様のことが分かるようになることです。

とにかく二人の性格には天と地のように差があったのですが、二人を扱うイエス様のなされた方法は弱さに触れることでした。弱さが分からない者には弱さをはっきり「お前も弱い者だ」と表されました。これは使徒パウロへなされたやり方ですね。「私は弱いです、弱いです」と自分の弱さを強調する使徒ペトロには、その弱さがあるから私に呼び掛けられるということを見せて下さったのです。

皆様のことをよく考えてみて下さい。個人個人の性格、人柄、皆違います。なぜ皆様がこのように信仰的になったのでしょうか。それは皆様のそれぞれの弱さにイエス様が触られたからだと思います。それによって自分が生まれながらに持っている性格も変わって来たのでしょうか。そういう神様のなさり方を考えてみますと、本当に不思議です。

さあ、それぞれにイエス様が皆様を色々ななさり方で愛していることを信頼しましょう。そうです。私達が信仰的なことを行おうとすればやはり自分の弱さを誇らなければならないかも知れません。神様は弱さを選びました。その弱さを教会の頭として選びました。私達が自分に対して失望し、がっかりするところが沢山あっても、もう一つの可能性「ああ、この弱さによって真の強さに近づける」と悟ることが出来れば最高ではないかと思います。皆様ご自分のことを愛して下さい。がっかりする必要はありません。

ありがとうございました。